

【エクアドル政務・経済・外交：2025年5月】

1. 内政

(1) 国軍兵士11人の殺人事件

(ア) 9日、オレジャーナ県において、国軍兵士11人が殺害される事件が発生したところ、当国主要紙報道ぶりの概要は以下(イ)～(オ)のとおり。

(イ) 9日14時頃、オレジャーナ県アルト・プニーノ地区にて、当地国軍兵士11人が何者かによる襲撃により死亡した。

(ウ) この襲撃は、コロンビアの犯罪組織「コマンド・デ・ラ・フロンテラ」によるものと見られている。同組織は、FARC の離反兵であり、エクアドル犯罪組織の「ロス・チョネロス」や「ロス・ロボス」と関係を有しているとされている。

(エ) 今次襲撃は、犯罪組織による政府への報復行為である可能性が指摘されており、軍からの情報によると、襲撃は、爆発物、手榴弾、ライフル銃を使って行われた。

(オ) また、本事件は待ち伏せによる襲撃であったことから、犯人は事前にこの地域を取り締まる作戦計画に関する情報を国軍関係者から入手していたと考えられ、情報漏洩の可能性が懸念される。本事件は、犯罪組織の国境を越えた拡大を意味するものであり、憂慮される出来事である。

(2) 2025年エクアドル大統領選挙(決選投票結果の公式発表)

(ア) 10日、選挙管理委員会(CNE)は、2025年エクアドル大統領選挙決選投票の結果を公式に発表したところ、CNEのプレスリリース概要は以下(イ)～(ウ)のとおり。

(イ) 全ての行政及び司法手続きが完了したところ、5月10日、選挙管理委員会(CNE)は、その総会において、2025年エクアドル大統領選挙決選投票の最終結果を発表し、ダニエル・ノボア・アシン氏及びマリア・ホセ・ピント氏が、大統領及び副大統領に選出されたことを認定した。

(ウ) 4月13日に実施された決選投票では、国民民主行動同盟(ADN)の上記2名が、55.63%に相当する5,870,618票を獲得した。当選した上記2名に対しては、近日中に大統領・副大統領当選証書が付与される予定。

(3) 2025年エクアドル大統領選挙(大統領・副大統領に対する当選証書付与、決選投票公式結果)

(ア) 15日、選挙管理委員会(CNE)は、4月13日に実施された大統領選挙決選投票の結果を受けて、ノボア大統領及びピント氏に対し、それぞれ大統領及び副大統領当選証書を付与したところ、同日付CNEプレスリリースの概要以下(イ)のとおり。また、16日、CNEは、大統領選挙決選投票の公式結果を公表したところ、以下(ウ)のとおり。

(イ) プレスリリース概要

ア 15日、CNEは、2025年エクアドル大統領選挙を成功裏に終え、ノボア大統領及

びピント氏に対し、それぞれ大統領及び副大統領当選証書を付与した。

イ アタマイン CNE 委員長は、大統領選挙第1回投票及び決選投票に関し、透明性をもって民主的に実施された選挙プロセスであった旨述べた。

ウ ノボア大統領は、再任された新たな任務に責任をもって取り組む旨述べるとともに、自身に票を投じたエクアドル国民に対して謝意を表明した。

(ウ)大統領選挙決選投票公式結果

ア ノボア大統領(現職): 得票率55.63%(5,870,618票)

イ ルイサ・ゴンサレス候補: 得票率44.37%(4,683,260票)

(注:有効票:92.63%、白票:0.67%、無効票:6.7%、有権者数:13,731,145人、投票率:82.98%)

2. 外交

ノボア大統領の大統領選挙後初外遊:パチカン市国、スペイン、アラブ首長国連邦、イスラエル、英国及びフランス

(ア)4月24日～5月9日、ノボア大統領は、大統領選挙決選投票(4月13日実施)後の初の外遊として、パチカン市国、スペイン、アラブ首長国連邦、イスラエル、英国及びフランスを歴訪したところ、当国政府発表及び当地各紙報道ぶりに基づく訪問概要以下(イ)～(ク)のとおり。

(イ)パチカン市国(4月25日～26日訪問)

4月25日、ノボア大統領は、パチカン市国を訪問し、ローマ教皇フランシスコの葬儀に出席した。

(ウ)スペイン(4月27日～29日訪問)

ア 4月28日、ノボア大統領は、フェリペ6世国王陛下への拝謁を行った。大統領府によれば、フェリペ6世国王陛下は、エクアドルが今後4年間の安定の期間を有することにより、投資の増加に繋がる旨述べた。また、同陛下は、ノボア大統領を、本年7月1日～3日にスペイン・セビージャにて開催される第4回開発資金国際会議に招待した。更に、両者は、イberoアメリカ・サミットに関し、エクアドルが治安分野においてリーダーシップを発揮する可能性について協議した。

イ 4月29日、ノボア大統領は、イサベル・ディアス在マドリード・エクアドル人コミュニティ会長と意見交換を行い、エクアドル人の就職機会の向上の推進を図った。また、ノボア大統領は、スペイン人企業家との昼食会を行い、対エクアドル投資を求めた。ソメルフェルド外相は、石油、ガス、電力等のエネルギー分野や、医療、観光分野における対エクアドル投資を呼びかけた。

ウ 4月29日、ソメルフェルド外相は、アルバレス・スペイン外相と会談を行った。両外相は、今後のエクアドル人投資家のスペイン訪問、次期イberoアメリカ・サミット等につき協議を行った。更に、ソメルフェルド外相は、アラマンド・イberoアメリカ事務局

長とも会談し、次回イベロアメリカ・サミットについて協議を行った。

(エ) アラブ首長国連邦(4月29日～5月2日訪問)

ア 1日、ノボア大統領は、アブ・ダビ開発ファンド代表と会談し、弱者のための住宅建設を始めとする戦略的分野における様々なプロジェクトについて協議を行った。

イ また、ノボア大統領は、アラブ首長国連邦商工会議所関係者との会合を行い、対エクアドル投資を呼びかけるとともに、貿易の潜在性についても説明した。アラブ首長国連邦側からは、対エクアドル投資への関心が示された。

ウ 更に、ノボア大統領は、アブダラー・アラブ首長国連邦外相と会談した。両者は、住宅、エネルギー、輸出及びインフラ分野における協力強化や、投資促進、国際場裏におけるエクアドルのプレゼンス強化等につき協議した。

エ 加えて、ノボア大統領は、アブ・ダビ石油公社(ADNOC)との会合を行い、エネルギー及び石油分野における統合的及び効率的な協力について協議した。

オ ソメルフェルド外相は、アブダラー・アラブ首長国連邦外相と共に、サイバーセキュリティに関する協力文書に署名を行った、

(オ) イスラエル(5月3日～4日訪問)

ア 4日、ノボア大統領は、ヘルツォグ・イスラエル大統領と会談を行った。同会談において、両者は、治安分野をはじめとする重要分野における協力、テクノロジーや国防に関する経験、二国間関係の強化等につき協議を行った。

イ また、ノボア大統領は、ネタニヤフ・イスラエル首相と会談し、両国関係の強化を図った。ノボア大統領は、ネタニヤフ首相に対して、エクアドルとイスラエルは共通の敵を有していると述べた。

ウ 更に、ノボア大統領は、ソメルフェルド外相と共に、エクアドル協力・革新・企業センター開館式、並びにエルサレム・ヘブライ大学及び在イスラエル・エクアドル大使館間の協力覚書署名式にも出席した。ノボア大統領は、エクアドル協力・革新・企業センターに関し、「能力、科学、未来への両国間の期待を具現化したものである。エクアドルの若者、研究者、起業家、企業に対して、成長と世界との繋がりのプラットフォームを与えることになるだろう。」と述べた。同センターは、エルサレム・ヘブライ大学の協力の下、科学的研究、エクアドル若手起業家によるAI、生物医学、再生可能エネルギー、農業技術等のプロジェクトの初期支援を行う予定。

エ ノボア大統領は、在イスラエル・エクアドル人コミュニティ及び企業家との会合にも出席した。

(カ) 英国(5月5日～7日訪問)

ア 6日、ノボア大統領は、バルボネシ夫人と共に、チャールズ3世国王陛下への拝謁を行った。

イ 7日、ノボア大統領は、ホイル英下院議長と会談を行った。両者は、民主主義や国民の福祉を目的とする立法について、国の発展の基礎となる重要事項である旨強

調した。

ウ また、ノボア大統領は、密輸や不正通関との闘いのための技術を有する Palantir 社のハリス副社長との会合、英国の投資家及び企業家との会合、及び在英国エクアドル人コミュニティとの会合にも出席した。

エ 6日、ソメルフェルド外相は、チャップマン英開発省国務相と会談を行った。両者は、二国間政策協議メカニズムの設置に関する覚書に署名した。

(キ)フランス(5月7日～8日訪問)

ア 8日、ノボア大統領は、バルボネシ夫人と共にマクロン仏大統領と会談し、二国間関心事項について協議を行った。

イ また、ノボア大統領は、ソメルフェルド外相及びハラミージョ生産貿易投資漁業大臣と共に、ロスチャイルド社と会合を持ち、エクアドルのマクロ財政状況、投資誘致、エクアドルにおける雇用創出等につき協議を行った。

(ク)バチカン市国(5月16日～18日訪問)

ア 18日、ノボア大統領は、バルボネシ夫人と共に、教皇レオ14世の就任ミサに出席した。同ミサの最後に、ノボア大統領夫妻は、教皇レオ14世を表敬した。

3. 経済

(1)原子力の平和利用に関するIAEAとの覚書署名

(ア)13日、グロッシー国際原子力機関(IAEA)事務局長がエクアドルを訪問し、エネルギー・鉱物資源省との間で原子力の平和利用に関する覚書に署名したところ、同概要は以下(イ)～(オ)のとおり。

(イ)13日、マンサノ・エネルギー・鉱物資源大臣とグロッシーIAEA 事務局長は、エネルギー・鉱物資源省と IAEA 間の覚書に署名した。同署名は、原子力の平和的及び持続可能的利用に関する戦略的協力の開始を意味するものである。

(ウ)今次覚書では、IAEA は、技術支援、人材育成、原子力のプロモーション、インフラの評価等の協力を実施するとされている。

(エ)マンサノ大臣は、今次覚書署名に関し、新政権の目標に沿った歴史的に重要な出来事であるとし、安定的生産が期待される原子力エネルギーについて、電力マトリックスの多様化に資するものであると強調した。また、マンサノ大臣は、法的整備に関する国際機関の助言を得ながら、3～4年後には初の原子力エネルギーを有することができるようになるだろうと述べた。

(オ)今次覚書署名は、電力マトリックスの多様化、持続可能な成長及び長期的な電力の安定供給、並びに青少年の新たな雇用の機会創出に関するエクアドル政府のコミットを示すものである。

(2)中国からの借款の可能性

(ア)20日付経済財務省プレスリリースは、モヤ経済財務大臣が、中国・CELAC 閣僚

級会合に出席するため中国を訪問した機会に、エネルギー分野及び道路建設プロジェクトへの新規借款の可能性につき、中国の5つの金融機関と会合を行った旨発表しているところ、同プレスリリース概要以下(イ)～(オ)のとおり。

(イ)モヤ経済財務大臣は、中国・CELAC 閣僚級会合に出席するため中国を訪問した機会に、二国間財政関係を強化し、エクアドル国民にとって具体的利益をもたらすことになるプロジェクトへの新規借款の可能性を模索するため、中国の5つの主要金融機関と会合を行った。

(ウ)モヤ経済財務大臣が会合を行った金融機関は以下のとおり。

ア 中国国家開発銀行(CDB)

イ 中国工商銀行(ICBC)

ウ 中国銀行

エ 中国進出口銀行(Eximbank)

オ アジアインフラ投資銀行(AIIB)

(エ)モヤ経済財務大臣は、上記会合において、ノボア政権の優先プロジェクト、特に再生可能エネルギー分野及び道路建設プロジェクトについて説明するとともに、中国の金融機関及び投資家からの融資に対するエクアドルの関心を表明した。

(オ)また、エネルギー分野において、中国が豊富な経験を有していることから、技術協力の可能性についてのコミットも表明された。